

# 第16回中高合同体育祭



# 芸北教育

広島県立加計高等学校  
芸北分校

309号

令和2年  
~10月~

9月19日(土)、秋の爽やかな空気、澄み渡る青空、芸北の緑豊かな自然に囲まれて第16回中高合同体育祭を開催しました。テーマは「雲外蒼天」く困難を吹っ飛ばせ! なんくるないさく、例年は5月中旬に行う一大行事であり、1年生が自身の殻を破るきっかけとなるものです。2年生は昨年の経験を生かし、まさしく軸となり、1年間の成長した姿を見せてくれました。3年生は、自身の進路実現にむけて準備をしながらも、まさしく「後輩のために」全力で

なれるのか?」と、戸惑っていた1年生もあの**緊張感**の中で「りんご踊り」をやり切った後は、達成感と自信に満ちた表情をしていました。芸北分校の**新たな伝統**をまた一つ築きました。



背中を見て育つ』姿を垣間見ることができました。「なぜ、こんなにもまです3年生が一生懸命に

体育祭に取り組む姿を見せました。『先輩は後輩のためにある。後輩は先輩の

全国から入学できます! 男子寮、下宿、女子寮、下宿完備。町から月一万円の補助制度あり。見学随時可能。(電話)〇八二六・三五・〇七二六



全校生徒の応援団  
「りんご踊り」は圧巻！



中高合同選手宣誓



生徒のアンケートから

●3年生が最高学年として威力を見せてくれた。「りんご踊り」は練習がしんどくて体力的にもキツかったけど先輩、後輩すべて関わり盛り上がることでできた。

そうになった。正直にいえば、最初は「やりたくないな」という思いがあったが、本番は「よし！頑張ろう！」絶対ミスをしたく

最初に円陣を組んだ時、団長から「最後だから・・・」という言葉があったときは涙が出

先輩から後輩へ襷をつなぎます！

来年も是非、頑張りたい。(2年生)

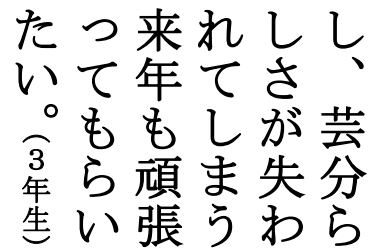


ない」と思った。実際、笑顔で踊ることができ、達成感を感じた。(1年生)  
●「りんご踊り」と入退場の行進は、芸分生らしい元気さや迫力を表現することができ、練習で忍耐力を

つけたたり、恥ずかしさを無くすことが大切だと思う。今年には練習期間も短く大変だったが、







●今年は新型コロナウイルス感染症拡大防止ということ、午前中のみでの開催であり、観客や種目も縮小された。今後、何があっても、**りんご踊り**だけは残してもらいたい。多くの先輩から引き継いだ伝統を無くして欲しくないし、芸分らしさが失われてしまう。来年も頑張ってもらいたい。(3年生)

デンや芸北小学校をはじめ、山県郡内の出身小学校でのインターンシップを行いました。教室では学ぶ



9月2日(水)からの3日間、地元の皆様のご協力によりアンデルセン芸北100年農場、芸北オークガ

**インターンシップ(1年生)**

9月25日(金)福山市の小学校にて今年度初の公演を行いました。平成26年から**通称「子プロ」**でお付き合いのある学校です。今年度はコロナ禍で北広島町の自然体験・民泊体験ができず、小学校側から「芸北分校生と児童が繋がっていたい」という願

**神楽部 初公演**

ことができない実学を体験することができました。一步一步成長しています。





は魅了され  
ていました。  
公演後も生  
徒が主体と  
なって小学  
生と交流を  
深めました。



からの実現  
となりまし  
た。演目「八  
岐大蛇」の  
迫力ある舞  
や囃子に対  
して小学生



※「子プロ」・・・

「子ども農山漁村交  
流プロジェクト」内閣  
官房、総務省、文科  
省、農林水産省、環  
境省が推進する子供  
が農山漁村での宿泊  
による活動のこと。



健康教育

がん教育

10月6日  
(火)広島市  
民病院から  
看護師の仁  
井山由香さ  
んを招いて

「がん」についての講演会  
を行いました。仁井山さん  
は芸北分校の卒業生であ  
り33年ぶりに来校された  
そうです。ご多用とは存じ  
ますが、時には母校に顔を  
出してください。貴重な  
なお話をいただきありが  
たうございました。

「商人訓」

福沢諭吉

商人は一旦の利に誘ふことなく、

一旦の損に驚くことなけれ

唯だ恐れ慎むべきは

日々月々軽々の損なり

唯だ希い望むべきは

連綿不断軽々の利なり

一旦の損は連綿軽々の利を以って

救うべけれど

連綿軽々の損は一時の利を以って

補い難し

これは、商人への教えであるが、同時に世の中に対しても言えることではないかと考える。

少し儲かった(成功)ということでは自慢するものではない。また、少しの損(失敗)で悲観することもない。用心しなければならぬことは、少しの損(失敗)の積み重ねである。願うことは小さな利益(成功)の積み重ねである。一時の損は日頃の利益によって救われることはできるが、積み重なった損は一時の利益だけでは補うことは難しい。

商人に対して「高志低身」という言葉もある。志を高く持ち、身だしなみを整え謙虚な姿勢で行動する人間性を身に付けよ。という意味である。

激しい時代の変化に対応しながらも日本人の商人の教えも大事にしたいものである。

太公望球児